Onitsuka Tiger

取扱説明書
INSTRUCTION
Y676・VD53・VD57・VD78・VK63・VJ21・VJ32

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご愛用くださいますようお願い申しあげます。なお、この取扱説明書はお手もとに保存し、必要に応じてご覧ください。

⚠警告 取扱を誤った場合に、重傷を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示しています。
⚠注意 取扱を誤った場合に、軽傷を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示しています。

ルミネッセンスについてのご注意とお願い

「ルミネッセンス」について

「ルミネッセンス」は、放射能等の有害物質を全く含んでいない、環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）物質です。

ルミネッセンスは太陽光や照明器具の明かりを短時間（約10分間:500ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約3～5時間）光を放つ夜光です。

なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度（明るさ）は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際の回りの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。

〈照度データ〉　（目安値）
太陽光　〔晴天〕100,000ルクス
〔曇天〕10,000ルクス
屋内（昼間窓際）〔晴天〕3,000ルクス以上
〔曇天〕1,000～3,000ルクス
〔雨天〕1,000ルクス以下
照明（白色蛍光灯40Wの下で）
〔1m〕1,000ルクス
〔3m〕500ルクス（通常室内レベル）
〔4m〕250ルクス

製品仕様

●クオーツ時計（VD53,VD57,VD78,VK63,VJ21,VJ32）
（1）水晶振動:32,768Hz（Hz=1秒間の振動数）
（2）携帯精度:平均月差約±20秒
（気温5℃～35℃において）
（3）作動温度範囲:−5℃～+50℃
（4）駆動方式:ステップモーター式
（5）使用電池・電池寿命
VD53／VD57
小型酸化銀電池（SR920SW）　1個
電池寿命約2年
VD78
小型酸化銀電池（SR626SW）　1個
電池寿命3年
VK63
小型酸化銀電池（SR936SW）　1個
電池寿命3年
（ただし、1日ストップウオッチ60分以内使用）
VJ21／VJ32
小型酸化銀電池（SR621SW）　1個
電池寿命約3年
（6）電子回路:C-MOS-LSI　1個

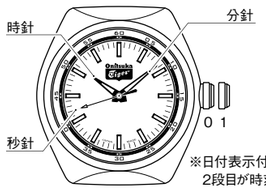
●自動巻き式機械時計（Y676）
（1）機能:　3針（時、分、秒）・日・曜日
（2）振動数:　21,600振動／時間
（3）携帯精度:　常温（5℃～35℃）において
日差+45秒～−35秒
（4）駆動方式:　ゼンマイ式（自動巻）
（5）使用石数:　21石

※メカニカルウオッチの特性上、ご使用になる条件（携帯時間、腕の動き等）によっては、上記精度の範囲を越える場合があります。
※振動数とは、テンプの振動数を表します。

仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

クオーツ時計（時・分・秒針）のご使用方法　-VJ21 -VJ32

各部の名称



リュウズ
0段目：通常の位置
1段目：時刻合わせ

※日付表示付のモデルは1段目が日付合わせ、2段目が時刻合わせとなります。

時刻の合わせかた

①リュウズを引き出すと秒針が止まります。秒針は12時の位置に止めてください。

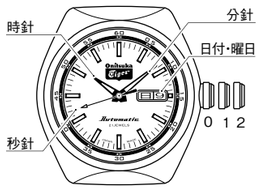
②リュウズを回して針を合わせます。
※クオーツは機械時計と機構が異なりますので正確に合わせるためには、分針を正しい時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。時刻合わせの際、分針が動く場合がありますが故障ではありません。お手数ですが、再度時刻合わせ操作をしてください。
※時刻合わせは、電話の時報サービス（TEL.117）が便利です。

③リュウズを押し込みます。

自動巻き式機械時計のご使用方法　-Y676

●自動巻き式機械時計の取り扱いかた
- この時計は、自動巻き式機械時計です。
- ゼンマイは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。
- 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振って始動させてください。秒針が動き出したら日付と時刻を合わせて腕におつけください。
- この時計は、ゼンマイを十分に巻き上げた状態で約40時間動き続けます。ゼンマイの巻き上げ不足は進み遅れの原因になりますので、1日8時間以上携帯されることをおすすめします。

各部の名称



リュウズ
0段目：通常の位置
1段目：日付・曜日合わせ
2段目：時刻合わせ

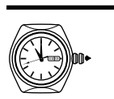
時刻の合わせかた

①リュウズを2段引き出します。
※リュウズが引き出せない（ねじロック式リュウズ）モデルは、リュウズを左に回してねじをゆるめリュウズを2段引き出します。
※秒針は止まりません。

②リュウズを回して現在の時刻に合わせます。
※午前・午後を間違えないように合わせてください。（日付は24時間に1度変わるように設定されています。）
※機械時計は、クオーツ時計と機構が異なりますので、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

③リュウズを押し込みます。
ねじロック式リュウズのモデルは、リュウズを押しつけながら右に止まるところまでねじ込んでください。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

日付・曜日の合わせかた



①リュウズを1段引き出します。
※リュウズが引き出せない（ねじロック式リュウズ）モデルは、リュウズを左に回してねじをゆるめリュウズを1段引き出します。

②リュウズを回して前の日付・曜日にセットします。
※午後9時から午前4時までは日付を合わせないでください。この時間帯に日付・曜日を合わせますと、翌日になっても日付が変わらないことがありますので、この時間外に針を動かしてから日付を合わせてください。
※英文字・和文字お好みの方に合わせてください。

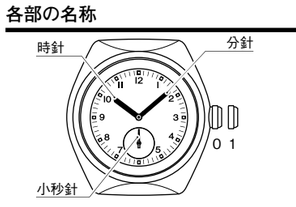
③リュウズを2段目まで引き出して、今日の日付・曜日になるまで針を回します。今日の日付に変わると「午前0時」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

④リュウズを押し込みます。
※ねじロック式リュウズのモデルは、リュウズを押しつけながら右に止まるところまでねじ込んでください。

●月末の日付修正について
2月（1カ月が28日、うるう年は29日）と小の月（1カ月が30日）では日付の修正が必要になります。
【小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合】
①「1日」ではなく「31日」が表示されています。リュウズを1段引きます。
②リュウズを回して日付を「1日」に合わせたのち、リュウズを押し込んでください。

クオーツ時計（時・分・小秒針）のご使用方法　-VD78

各部の名称



リュウズ
0段目：通常の位置
1段目：時刻合わせ

時刻の合わせかた

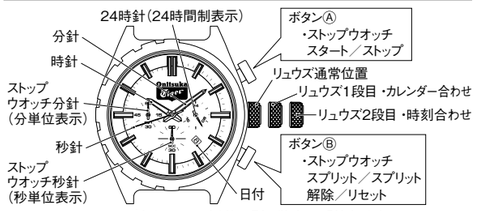
①リュウズを1段引きだすと小秒針が止まります。小秒針は12時の位置に止めてください。

②リュウズを回して針を合わせます。
※分針を正しい時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

③時報と同時にリュウズを押し込みます。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

クオーツ時計（クロノグラフ）のご使用方法　-VD53

各部の名称とはたらき



※ストップウオッチは、時刻とは別に独立して計測します。

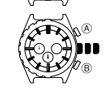
ストップウオッチ秒・分針の0の位置確認と合わせかた

時刻合わせの前に、ストップウオッチ秒・分針が0位置（12時位置）に合っているか確認してください。
※ストップウオッチが計測中のときは、次のボタンを押してリセットしてから0位置確認をしてください。（詳しくは"ストップウオッチの使いかた"の項をご参照ください。）
・針が動いている状態:ボタンⒶ→Ⓑ　・ストップ状態:ボタンⒷ
・スプリット状態　:ボタンⒷ→Ⓐ→Ⓑ

ストップウオッチ秒・分針が0位置からずれているときは、次の手順にそって合わせてください。

①リュウズを2段引きます。

②ボタンⒶとⒷを同時に約2秒間押して、ボタンを離します。
・ストップウオッチ秒針が左右に回り止まります。



③ボタンⒶまたはⒷを押してストップウオッチ秒・分針を0位置へ合わせます。
・ボタンⒶでストップウオッチ秒針を合わせます。
・ボタンⒷでストップウオッチ分針を合わせます。

④リュウズを回し時刻を合わせた後、リュウズを押し込みます。
（詳しくは"時刻の合わせかた"の項をご参照ください。）

※ストップウオッチ分針は、ストップウオッチ秒針の動きに合わせて回ります。
※早送り修正をするときは、ボタンを押し続けます。
電池を交換した後は、時計内のICメモリー情報とストップウオッチ秒・分針の表示位置が一致しなくなりますので、上記の手順にそって合わせてください。

時刻の合わせかた

※時刻を合わせるときは、かならずストップウオッチを止めてからおこなってください。

①リュウズを1段引きます。
※リュウズが引き出せない。（ねじロック式リュウズ）モデルは、リュウズを左に回してねじをゆるめ、リュウズを1段引きます。
※この時計のリュウズは2段引くことができます。

②リュウズを回して前の日の日付けに合わせます。

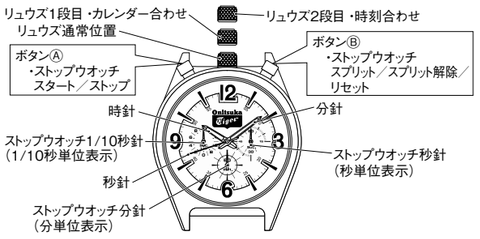
③リュウズを2段目まで引き出して今日の日付けになるまで回し針を現在時刻に合わせます。
（午前・午後を間違えない様に合わせてください。）
※秒針は12時の位置に止めてください。
1. 1段目（日付合わせ）　2. 2段目（時刻合わせ）
※ボタンを押すとストップウオッチ秒針がずれますのでご注意ください。
（詳しくは"ストップウオッチ針の0位置確認と合わせかた"の項を参照ください。）

④時報と同時にリュウズを押し込みます。
※ねじロック式リュウズのモデルは、リュウズを押しつけながら右に止まるところまでねじ込んでください。

※午後9時～午前1時までは日付けを合わせないでください。
この時間帯に日付けを合わせますと、翌日になっても日付けが変わらないことがありますので、この時間外に針を動かしてから日付けを合わせてください。

クオーツ時計（クロノグラフ）のご使用方法　-VD57

各部の名称とはたらき



※商品によってカレンダーの有無があります。
※ストップウオッチは、時刻とは別に独立して計測します。
※ストップウオッチ1/10秒針は最初の1分間のみ運針します。1分以降はストップしたときのみ1/10秒単位を表示します。

ストップウオッチ秒・分針の0の位置確認と合わせかた

時刻合わせの前に、ストップウオッチ1/10秒・秒・分針が0位置（12時位置）に合っているか確認してください。
※ストップウオッチが計測中のときは、次のボタンを押してリセットしてから0位置確認をしてください。
・針が動いている状態:ボタンⒶ→Ⓑ　・ストップ状態:ボタンⒷ
・スプリット状態　:ボタンⒷ→Ⓐ→Ⓑ

ストップウオッチ1/10秒・秒・分針が0位置からずれているときは、次の手順にそって合わせてください。

①リュウズを2段引きます。

②ボタンⒶとⒷを同時に約2秒間押して、ボタンを離します。
・ストップウオッチ針が左右に回り止まります。

③ボタンⒶまたはⒷを押してストップウオッチ1/10秒・秒・分針を0位置へ合わせます。
・ボタンⒶでストップウオッチ1/10秒針を合わせます。
・ボタンⒷでストップウオッチ秒針・分針を合わせます。

④リュウズを押し込みます。
※リュウズを押し込まないと時計は動きません。

時刻の合わせかた

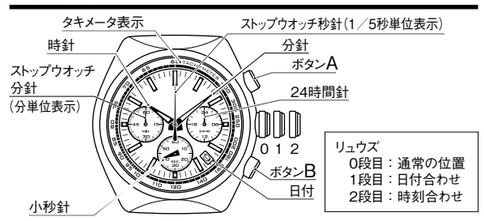
①リュウズを2段引きだすと小秒針が止まります。小秒針は12時の位置に止めてください。

②リュウズを回して針を合わせます。
※分針を正しい時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

③時報と同時にリュウズを押し込みます。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

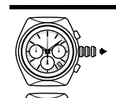
クオーツ時計（クロノグラフ）のご使用方法　-VK63

各部の名称



リュウズ
0段目：通常の位置
1段目：日付合わせ
2段目：時刻合わせ

時刻の合わせかた



①リュウズを2段引きだすと小秒針が止まります。小秒針は12時の位置に止めてください。

②リュウズを回して針を合わせます。
※分針を正しい時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

③時報と同時にリュウズを押し込みます。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

日付の合わせかた

①リュウズを1段引き出します。

②リュウズを回して日付をセットします。
※午後9時から午前4時までは日付を合わせないでください。この時間帯に日付を合わせますと、翌日になっても日付が変わらないことがありますので、この時間外に針を動かしてから日付を合わせてください。

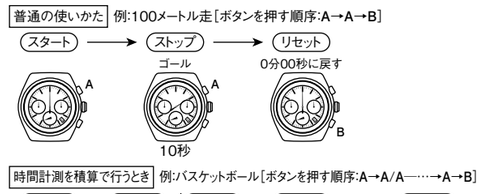
③リュウズを押し込みます。

●月末の日付修正について
2月（1カ月が28日、うるう年は29日）と小の月（1カ月が30日）では日付の修正が必要になります。
【小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合】
①「1日」ではなく「31日」が表示されています。リュウズを1段引きます。
②リュウズを回して日付を「1日」に合わせたのち、リュウズを押し込んでください。

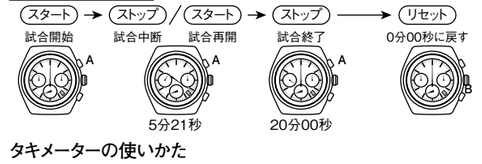
ストップウオッチの使いかた

※ストップウオッチは、時刻とは別に独立して計測します。
※ストップウオッチは1/5秒単位刻みで最大60分まで測定できます。
※途中のスタート／ストップは何回でも繰り返すことが出来ます。

普通の使いかた　例:100メートル走［ボタンを押す順序:A→A→B］



時間計測を積算で行うとき　例:バスケットボール［ボタンを押す順序:A→A/A⋯⋯→A→B］



タキメーターの使いかた

おおよその速度を測定できます。
ストップウオッチ秒針が0位置を指した状態でボタンAを押し、1kmを走行した時点で再度ボタンAを押します。止まったストップウオッチ秒針がさすタキメーター表示がおおよその時速となります。

使用上のご注意とお手入れの方法

●装着・携行等でご注意いただきたいこと

⚠警告
・携行時の転倒や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬけがを負う場合がありますのでご注意ください。
・乳幼児を抱いたりする場合は、時計との接触でけがを負ったり、アレルギーによるかぶれを起こしたりする場合がありますのでご注意ください。
・装着状態の動作によっては、時計が大切な器物と接触損傷したり、時計の故障となる可能性があるので取り扱いには十分ご注意ください。

⚠注意
・バンド中留部の構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

●日常のお手入れ

⚠注意
・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておくと錆で衣類の袖口を汚したり、かぶれの原因となりますので常に清潔にしてご使用ください。
・時計を外した時は、柔らかい布で汗や水分を拭き取るだけで、ケース・バンド・パッキンなどの寿命が違ってきます。
・化学薬品（ベンジン、シンナー、アルコール類、洗剤等の有機溶剤）で洗うと、化学変化で時計が劣化することがありますので、ご注意ください。
〈革バンド〉
柔らかい布などで水分を吸い取るように軽く拭いてください。こするように拭くと色落ちしたり、ツヤがなくなったりする場合があります。
〈金属バンド〉
柔らかい歯ブラシなどを使い、部分水洗いなどのお手入れをお願いします。洗浄後は吸湿性の良い柔らかい布で水分を十分にふき取ってください。非防水時計の場合は、時計本体に水分がかからないようにご注意ください。
〈軟質プラ製バンド〉
蛍光灯や太陽光の下に長時間放置したり、汚れが染み込んだりすることによって、色あせ・変色や硬くなったり切れたりする場合があります。特に、半透明のウレタン製のバンドは、変色が目立ちやすく、使用条件によっては数ヶ月で起こり始める場合があります。湿気の多い場所に保管したり、汗や水に濡れたまま放置しておくと、早く変化することがありますので、汚れた時は、石けん水で洗ってください。バンドは化学合成製品ですので、溶剤によっては変質することがありますのでご注意ください。

●かぶれやアレルギーについて

⚠注意
・バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。
・かぶれやすい体質の人や、体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。
・かぶれの原因として考えられるのは、
①金属・皮革に対するアレルギー
②時計本体やバンドに発生した錆、汚れ、付着した汗などです。
・万一肌などに異常が生じた場合は、ただちに使用を中止して、医師にご相談ください。

●防水性能

時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認の上、使用可能範囲にそって正しくご使用ください。

時計の防水表示	使用例／防水の水準	洗顔や雨など一時的にかかる水滴	水泳や水仕事など長時間水にふれる場合	空気ポンペを使用しないスキンダイビング	空気ポンペを使用する本格的な潜水およびヘリウムガスを使用する潜水（飽和潜水）
WATER RESISTANTの表示のない時計	非防水	×	×	×	×
WATER RESISTANTの表示のある時計	日常生活用防水	○	×	×	×
WATER RESISTANT 5・10・20Barの表示のある時計	日常生活用強化防水	○	○	×	×

⚠警告
・日常生活用強化防水（5・10・20気圧防水）の時計は、素潜りを含め、すべての潜水行為には絶対に使用しないでください。
・日常生活用防水（3気圧）の時計は、水の中に入れてしまうような環境では絶対に使用しないでください。

⚠注意
・日常生活用強化防水の時計を海水等の環境下でのご使用後は、なるべく早く塩分などを洗浄してください。錆の原因となる場合があります。水道蛇口下での洗浄は、過度な水圧が加わり、防水不良の原因となる場合がありますので、容器内洗浄で過度な水圧が加わらぬように注意してください。
・革バンドは材質の特性上、水にぬれると耐久性に影響が出る場合があります。
・水分のついたままリュウズを回したり引き出したりしないでください。万一、水や汗でぬれた場合には吸湿性の良い布などで水分をふき取ってください。

●保管について

時計を使用しない時は、次の事項が、時計の破損や劣化、故障の原因等となる場合がありますのでご注意ください。
①「−5℃～+50℃からはずれた温度」環境下では、性能が劣化したり、停止する場合があります。
②直射日光の当たるところ、高温になるところ、低温になるところに長時間置くと時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
③磁気の影響（テレビ、スピーカ、携帯電話、磁気ネックレス等）があるところに放置すると、時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
④強い振動のあるところに放置すると、破損や時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
⑤薬品の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置すると時計の劣化や破損の原因となります。
薬品例）ベンジン、シンナー、マニキュア、化粧品などのスプレー液、クリーナー剤、トイレ洗剤、接着剤、水銀、ヨウ素系消毒液、防虫剤など
⑥温泉入浴、殺虫剤の入った収納場所など、特殊な環境に放置すると時計の劣化の原因となる場合があります。
⑦長時間時計を外しておく時は、箱などに入れて、風通しのよい場所に保管することをお勧めします。

●定期点検について

・ながく安心してご愛用いただくために、2～3年に1度程度の分解掃除による点検調整をおすすめします。
ご使用状況によっては、機械部の保油状態が損なわれていたり、油の汚れなどによって部品が摩耗し、時計の進み、遅れが大きくなることがあります。また、パッキン等の部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。分解掃除による点検調整をお買い上げ店にご依頼ください。
・電池交換などの部品交換の際は、「弊社指定の純正部品」とご指定ください。
・定期点検の際は、パッキンやバネ棒の新品交換も合わせてご依頼ください。

こんな時には

●時計が一時的に進む／遅れる
【考えられる原因】
暑いところまたは寒いところに長く置いた
⇒精度は常温に戻れば元に戻ります。
【考えられる原因】
磁気を発生するもののそばに置いた
⇒精度は、磁気の発生するものから放せば元に戻ります。
元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。
【考えられる原因】
・落としたり強くぶつけたり、または激しいスポーツをした
・強い振動が加えられた
⇒精度は元に戻りません。お買い上げ店にご相談ください。
【考えられる原因】
3年を越える長期間、分解掃除による点検調整を行っていない
⇒お買い上げ店にご相談ください。

●時計が止まった
【考えられる原因】
ゼンマイが巻かれていない
⇒数回振れば動き出します。それでも動かない場合は、お買い上げ店にご相談ください。

●日付が日中に変わる
【考えられる原因】
時刻合わせが12時間ずれている
⇒12時間分、針を進めてください。

●ガラスのくもりが消えない
【考えられる原因】
・パッキンの劣化などにより時計内部に水分が入った
・水分がついたままリュウズをまわしたり、引き出した
⇒お買い上げ店にご相談ください。